

がふえている。この特許資料も、調査相談業務の一つとしてあつまっているがその利用状況は、資料のぼう大な割には少ないものとなっている。〔表5, 11〕

〔表9〕 特別貸出し状況

(昭和56.4～57.3)

貸出し先	件数	冊数
官公庁関係	95	245
図書館その他	41	136
会社・事業所	38	88
報道機関	56	119
学校	40	117
一般利用者	43	75
計	313	780

新聞記事索引は、昭和43年より開始したが、職員の負担が重い為、昭和53年12月中止し、昭和57年度からは、連載記事のクリッピングのみをおこなうこととし、新聞記事索引については、「福島民報縮刷版」によることにしている。

資料展は、「光をもとめて —社会福祉関係資料展—」と題して、船越恵写真集のほか、郷土の福祉関係資料約30点の展示を、7月から8月にわたっておこなった。

〔表10〕 複写利用状況

(昭和56.4～57.3)

利用件数	2,993件
利用枚数	42,136枚

〔表11〕 特許関係調査相談利用状況

(昭和56.4～57.3)

種別	調査相談をうけた件数							閲覧人員(人)	複写件数
	公務員 会社員	商業	団体職員	農業	自由業 その他	学生	計 (件)		
特許	19	7	7	1	2	1	37	70	60
実用新案	15	6					21	59	39
意匠		1	2				3	3	4
商標		4	3	1			8	8	13
審決									
その他		2					2	15	26
計	34	20	12	2	2	1	71	155	142

第4節 館外奉仕

1 移動図書館「あづま号」の巡回

移動図書館の巡回も昭和29年に開始して以来、幾多の変遷を経て今日に至っている。全国的に昭和40年代から市町村立図書館が移動図書館の巡回を行うところが増えるにつれて県立の移動図書館は、本来の機能である「直接住民に資料を提供する」ことは市町村の手に委ねて、そのための資料の補完を行うという方向をとるに至っている。本県に

においてもこうした動向をふまえて、資料の提供と同時に市町村読書施設に対して、移動図書館巡回奉仕の必要性を説いて廻った。

現在本格的な移動図書館車の運行を行っているところは、会津若松市 あいづね号、郡山市 あさかの号(2台)、いわき市 いわき号(2台)、須賀川市 うつみね号、福島市 しのぶ号、本宮町 あだたら号の6市町8台であり、明年度は矢吹町、大熊町が実施を予定している。その他本格的な車ではないにしても、車を使って図書を住民に届けるという方法をとるところが、増えて

〔表12〕 昭和56年度移動図書館「あづま号」利用状況

(昭和56.4～57.3)

コース名	信夫	伊達	安達	田村	岩瀬・石川	東白・西白	耶麻	両沼	南会津	相馬	双葉・いわき	計
巡回回数	3	3	3	3	2	2	2	2	2	3	2	27
巡回日数	15	15	15	8	8	8	8	8	6	8	8	111
駐車場数	21	28	22	15	13	11	15	11	10	7	11	154
利用団体数	60	59	68	21	15	21	22	17	10	17	12	322
貸出冊数	13,437	8,795	11,999	5,315	4,051	4,306	4,607	4,830	4,647	9,182	2,528	73,697